

ふれあいひろば

[患者とともにある全人的医療]

第9回五大がんに関する市民公開講座

大腸がんの外科治療



消化器外科 山崎 俊幸



はじめに：

今回の市民公開講座は“大腸がんの外科治療”というタイトルで、主に手術による治療の実際をお話しました。テーマとして“からだにやさしい手術”を掲げて、いろいろな手術方法を

紹介し、解説を加えました。

ガイドラインの概説：

手術の考え方、方針決定を理解していただくため、大腸癌治療ガイドラインに従って、がんの発生・進展・転移を説明しました。がんは腸の内側の粘膜から発生し、腸の壁の中を外側に向かって進展します。リンパ節転移は腸を栄養する血管に沿って起きます。さらに進むと肝臓や肺などへ転移していきます。ステージ分類は表のように、腸の壁の中での進み具合と、リンパ節や他臓器への転移の有無で決められます。

表1. ステージ分類

ステージ0：	癌が粘膜の中にとどまっている。
ステージⅠ：	癌が大腸の壁にとどまっている。
ステージⅡ：	癌が大腸の壁の外まで浸潤している。
ステージⅢ：	リンパ節転移がある。
ステージⅣ：	血行性転移(肝転移,肺転移)または腹膜播種がある。

手術方針の決定：

ステージ診断をもとに、手術は、がんを中心に前後の腸10cmくらいずつと、そのまわりのリンパ節・血管を取るように決定されます。この切除範囲はがんのできた部位により、ある程度決まっているので、幾つかの術式に分類されます。この術式を15年くらい前までは大開腹で行っていましたが、腹腔鏡というアプローチが開発されたことで、約10年前からは手術内容は同じなのにキズの大きさが格段に小さくなりました。腹腔鏡で済まない場合は仕方なく大開腹になっていきます。

からだにやさしい手術(1) 局所切除：

例えばステージ0など腸切除をしなくても済む場合は、内視鏡を使った技術や肛門から直接切除する技術で、からだにキズをつけないで手術を終える場合があります。EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、TEM：経肛門内視鏡下手術などですが、高度の技術を必要とし、特にESDとTEMは施行している施設は限られています。またこれらの方法で済まない場合は、腹腔鏡手術の適応となっていきます。

からだにやさしい手術(2) 機能温存手術：

特に直腸がんで問題になりますが、肛門温存と神経温存の2つに関してです。肛門は温存できなければ人工肛門になって、お腹に便の出口ができます。神経は手術で切れてしまうと尿が出せなくなったり、子供ができなくなったりします。どちらもからだにとって非常に重要な問題です。これをいかに残せるか、機能温存に関しては施設間の差はありますが、当院でも限界まで挑戦しています。

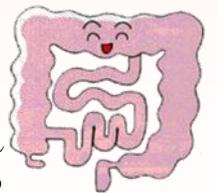
からだにやさしい手術(3) 腹腔鏡手術：

キズが小さいことの恩恵は絶大で、早期退院・早期社会復帰・次の治療の早期導入へとつながります。手間と費用がかさむ等の欠点もありますが、急速に普及しています。ガイドライン上はまだステージ1~2くらいまでが推奨とされていますが、患者さん側の要望とともにすべてのステージへ適応は広がっているのが現状です。しかしまだ、すべての病院がこの手術に対応・習熟しているわけではなく、高度な技術も要求されるので施設間の格差があります。当院は腹腔鏡手術での機能温存手術を実現しております。手術内容の一部をビデオで供覧しました。

おわりに：

“からだにやさしい手術”をめざし、そのために常に最大限の努力が注がれています。すべて一貫して手術を受ける立場に立って物事を考え、いかにして患者さん側の負担をなくせるかを、今なお追求していることをご理解いただけたかと思います。

今後も究極の“からだにやさしい手術”を達成すべく、さらに一層精進したいと存じます。



「中学生を対象とした消化器病体験セミナー」開催報

消化器外科 桑原史郎

平成23年8月6日（土曜）に新潟市内の中学生を対象とした「消化器病体験セミナー」が開催されました。今回はその報告をしたいと思います。

平成22年より新潟市民病院では中学生に医師の仕事を模擬体験することで「将来医師や医療に携わる仕事に就きたい」という興味を抱いてもらい、将来設計能力および意思決定能力を育成するキャリア教育を行っています。昨年は「心臓病体験セミナー」を循環器内科の主催により行いました。本年は、消化器内科、消化器外科、病理科、麻酔科の主催により「消化器病体験セミナー」と題して行いました。

当日は炎天下の土曜日にもかかわらず新潟市内から男子6名、女子14名の中学生と保護者に参加していただきました（応募者が多数のため抽選となったことをご容赦ください）。セミナー開始直後は緊張し、口数も少なかったようですが、プログラムの進行にともない仲間となっていきました。

当日のプログラムは「見学」と「体験」の2つの構成としました。「見学」では普段決して入室することのできない手術室と内視鏡室の見学をしていただきました。また「体験」では内視鏡操作、腹腔鏡操作、電気メス操作、病理標本触知体験の4つの体験をしていただきました。



手術室見学：

実際の手術室に手術キャップ、マスク、ガウンを着用して入室してもらいました。手術室では消化器外科医師、麻酔科医師、研修医、手術室看護師により本物の手術と全く同じガウン・道具で迫真の演技をしていただきました（模擬患者さんです）。TVのワン



シーンでしか見たことのない手術室に生徒・保護者ともに興味深々で、また手術中の患者さんの命が多くの人に守られていることを理解してもらいました。

内視鏡室見学：

内視鏡による映像、内視鏡治療の説明を消化器内科の先生よりしていただきました。内視鏡の長さ、太さ、きれいなTV画面を見ることで日本が世界に誇る光学医療技術を知っていただけたと思います。

内視鏡操作体験：

胃カメラのシミュレーターにより口腔から胃までの内視鏡挿入と病変の写真撮影を体験していただきました。自分で操作するカメラにより胃までが観察でき写真をハンドアウトしてもらうことで参加の大きな記念になりました。また、特別企画として実際の腹部を材料として超音波により肝臓、腎臓などを描出してもらいました。（研修医の先生に長時間おなかを提供してもらいました）。

腹腔鏡操作体験：

近年爆発的に施行されている腹腔鏡の鉗子操作をコンピュータシミュレーターを中心として体験していただきました。最初はなかなかうまくいかなかった鉗子操作も最後には本物の外科医よりも上達し、常日頃からTVゲームに親しんでいる若者世代と実感しました。

電気メス体験：

電気メス、超音波メスを実際の豚肉に用いて切開や凝固を体験してもらいました。また豚皮を手術で使用する針と糸で縫合してもらい、ブラックジャック気分を堪能していただきました。

病理標本体験：

ホルマリンで固定された実際の臓器を、病理科の先生の解説とともに触知していただきました。初めて見て、触る、本物の臓器、病気になった臓器に興味深々で触知していました。写真や学校の授業より強烈なインパクトがあったようです。

最後は全員に「修了証書」を授与しました。参加者の生徒さんから「将来は、医師となって市民病院で仕事がしたい」との頼もしい感想も聞かれました。

セミナーを終えて

病院の大きな仕事は病気を診断して、治療することです。しかし、現在社会では本来の仕事以外に当該地域のための社会貢献をすることも必要です。新潟市民病院は新潟市の基幹病院として本来の病院機能（診断、治療）と並行して、次世代の医療人の育成も重要な使命です。そのような意味でも大変有意義なセミナーであったと思われます。

今後も毎年担当部署を変更し、開催予定ですので、希望の方がいらしたら是非参加をお勧めします。



外来受診は予約が必要 ～適正受診に理解と協力を～

医事課

市民病院は、地域の医療機関で精密検査、手術、入院が必要と判断された患者や、救急医療、周産期医療などの重症患者を受け入れる病院です。

外来受診の際は次の点に気を付けてください。

●必ず事前に予約を

受診の際は必ず予約をしてください。初診だけでなく、再来の場合も予約が必要です。

予約の枠は、入院患者の診療や手術を行う時間を考慮して設定していますので、予約をせずに来院した場合、当日の受診ができない場合があります。

・予約・問い合わせ

予約センター（月～金曜午前8時～午後4時電話025-281-6600）

※午前11時までは当日予約のみ

●紹介状の持参を

初診の場合は、できるだけ、ほかの医療機関からの紹介状を持参してください。かかりつけの医療機関がある場合は、事前にかかりつけ医に相談してください。

紹介状がない場合は、初診時保険外併用療養費として2100円が必要です。

整形外科、産科・婦人科、内分泌・代謝内科、耳鼻いんこう科の初診は紹介状がある人に限ります。

※精神科は、常勤医師がいないため、初診患者を受け入れていません。

●急患外来の適正受診を

近年、かぜや腹痛など軽症にもかかわらず休日・夜間に当院急患外来を受診する患者が増えています。軽症の患者が増えることにより、本来、重症・重とくな患者に対応すべき医療体制が維持できなくなる恐れがあります。

夜間や休日などに受診したいときは、地域の急患診療センターを利用してください。

必要な時に必要な医療が受けられるよう、市民の皆さんのご理解、ご協力をお願いします。



納涼コンサートが行われました

ボランティア活動推進委員会

7月22日にボランティアによる納涼コンサートが行われました。竹彩会の方々による津軽三味線と民謡から始まり、職員によるヴァイオリンとピアノの演奏が行われ、100人あまりの方々においでいただきました。参加された方は、手を叩いたり、時に笑いながら、つかの間のひと時を楽しんでいただけた様子でした。竹彩会の方々には、曲の紹介をしながら笑いも交えて進行していただきました。ヴァイオリンとピアノは、「川の流れるように」「星に願いを」「イエスタディ・ワンス・モア」「上を向いて歩こう」などの曲目で、幅広い年代の方々に楽しんでいただきました。2月にもボランティアコンサートを企画しておりますので、みなさん是非ご参加ください。



登録医の紹介

医 院 名：亀田皮フ科 院長：青木 宣明
診療科目：皮膚科、アレルギー科
住 所：950-0121 新潟市江南区亀田向陽3-15-18
電話番号：025-382-0888
診療時間：月・火・水・金 9：00～13：00 15：00～18：00
木・土 9：00～13：00
休 診 日：日・祝日

自院特徴と診療方針

- ・中央区西堀地区の「西堀皮フ科」が江南区亀田に移転し、医院名も「亀田皮フ科」になりました。
- ・シミ用レーザーをはじめ最新機器を導入しました。詳しくは、ホームページをご覧ください。

<http://www.kamedahihuka.com>

医 院 名：東大通内科クリニック 院長：荒井 康弘
診療科目：糖尿病内科
住 所：950-0087 新潟市中央区東大通1丁目8-10 医療福祉ビル2階
電話番号：025-249-8555
診療時間：月～木 9：00～13：00 15：00～18：00
金 9：00～12：00
休 診 日：土・日・祝日

自院特徴と診療方針

- ・当院は地域のかかりつけ医として、その人に合った医療を心掛けています。
その人の体の状態を正しく知ること、まず心を安定にしてもらい、質の高い生活を維持しつつ、天寿を全うする手助けができれば幸いです。



「～ 知って楽しむ～ 市民病院ふれあいまつり 2011」開催のお知らせ

市民病院ふれあいまつり実行委員会

期 日 2011年10月15日（土）10：00～15：00

場 所 外来ホール1階、2階外来フロア、講堂他

内 容 「講演会」

「病院を楽しもう！」

「病院を知ろう！」など

詳細は、決定次第皆様にお伝えいたします。



皆様のご来場をお待ちしております。

編集後記

猛暑も終わり、日差しが爽やかな秋らしくなってきました。

まだまだ暑いと感じる日もありますが、体調には気を付けてお過ごしください。

(T.I.)

市民病院のホームページもご覧ください
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

新潟市中央区鐘木463-7

電話 025 (281) 5151 (すばやい受診こいこい)

Fax 025 (281) 5187

予約センター 025 (281) 6600 (すばやい予約ろくろくぜろぜろ)

お詫び
7月19日発行の「ふれあひひろば」は、108号でした。
お詫びして訂正いたします。